

	質問	答え
1	改訂版で主に変わったのはどのような点ですか。	<p>1. 学習項目を選定し直し、提出順序も見直しました。 例) 学習者になるべく早く自分のことを話せるように動詞の導入を第6課から第2課に移しました。</p> <p>2. 本文を見直し、より学習者に関連のある場面を取り上げました。 例) 日本人同士の訪問の場면을留学生が日本人家庭にホームステイをする場面にしました。</p> <p>3. 練習のバラエティを増やしました。代入練習だけでなく、運用力をつけるために必要な段階的な練習を多く盛り込みました。また、友達に自分のことを話す練習「友達と話しましょう」などを新しく設けました。</p>
2	どのような人を対象に作られていますか。	将来日本の大学や専門学校などに進学することを希望し、初めて日本語を学ぶ学習者が主な対象です。
3	テキストで提出されている語彙数はいくつですか。	テキストⅠ、Ⅱを通して1947語です。テキストⅠは1102語、テキストⅡは845語です。
4	漢字は何文字ですか。	821字です。(地名、人名のみに使われる漢字「栃」「茨」なども含みます。)
5	付属ディスクの内容を教えてください。	付属のCDには、教科書各課の本文(第17課本文1を除く)の音声と第24課文型1～3の音声収録されています。音声データとMP3形式のデータが入っていますので、CDプレーヤーでもパソコンでも再生が可能です。
6	テキストの練習に解答はありますか。	解答はありませんが、 <a href="#">『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ 改訂版 教師用指導例集』</a> には練習方法の例などが書いてありますので、参考にしてください。
7	各国語訳はありますか。	テキストの訳はありませんが、各課索引の訳は <a href="#">英語</a> 、 <a href="#">中国語(簡体字・繁体字)</a> 、 <a href="#">ベトナム語</a> があります。
8	教師用指導書はありますか。	<a href="#">『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ 改訂版 教師用指導例集』</a> が発売されています。
9	通常、テキストⅠ、Ⅱをどのぐらいの学習時間で終了しますか。	1コマ50分の授業で、本文、文型、練習(「チャレンジ」や「友達と話そう」を含む)に必要な学習時間は、テキストⅠは約100コマ、テキストⅡは約80コマを想定しています。各課の指導の流れや時間数については <a href="#">『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ 改訂版 教師用指導例集』</a> をご参照ください。
10	副教材の「楽しく聞こう」や「楽しく読もう」などの改訂はありますか。	現在改訂の予定はありませんが、本校では引き続き使用しています。使用の際には、課や語彙に変更があるものは、使用時期をずらしたり、語彙の補足説明を加えたりしています。(例:『楽しく聞こうⅠ』の第2課「何ですか。」は、テキスト第3課終了後に行い、問題Ⅰ.の語彙「ロッカー」や「掲示板」はテキストにはないので説明する)詳しくは <a href="#">『楽しく聞こう』『楽しく読もう』『楽しく話そう』と新しい教科書との対照表</a> をご参照ください。
11	「文化中級日本語Ⅰ・Ⅱ」の改訂の予定はありますか。	『文化中級日本語Ⅰ』は今のところ改訂の予定はありません。『文化中級日本語Ⅱ』は2014年度に第2版が出版されます。文型の順番や本文の内容などの大きな変更はありません。古くなった語彙(例えば「MD」)や、写真などを変更します。